

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600022		
法人名	有限会社 ふくすけ		
事業所名	グループホーム ふくすけ		
所在地	大分県臼杵市大字戸室字長谷1135番地の1		
自己評価作成日	平成24年12月13日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、職員が安心して家族を入所させたいと思うふくすけにしていく。その為にも認知症介護のプロとして接遇に徹底し、自分の行ったありのままに記録に残すをスローガンのもと、基本に戻り、利用者様の尊厳を明確にし、利用者様のラストステージを彩り鮮やかに送っていただきたいとケアの質に、こだわり、やったことに対しての確実な記録ができるように頑張ってきました。又、家族の集いを中心とした、利用者様のご家族に対しての支援も力を入れて行ってきました。家族が参加しやすい環境づくりにこだわり模様しものを取り入れました。今後も皆様に理解して気軽に立ち寄っていただけるグループホームとして地域に根差していくように努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. ユニット間の中央に事務所があり、利用者や職員が自由に交流でき、明るくて開放的な造りになっている。
2. 地区の行事や事業所の行事を通して、地域住民や地元の関係者との交流が出来る。
3. 職員の思いや特技が、事業所の行事や利用者への記念日のプレゼントなどに活かされ、利用者の個性に合わせた支援につながっている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時(申し送り)出勤全職員で理念の復唱を毎日継続することで意識し、また1年ごとのスローガンを設け、具体的に話し合い実践に結び付けるように取り組んでいる	申し送り時に、理念と年度ごとのスローガンを復唱し、全職員での共有と、日々のケアの振り返りを行っており、日常のケアに反映させている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々地域の方々と挨拶を交わしながら、地域の避難訓練に参加したり、夏祭りの参加等と通じてより良い交流が行われるように努めている	地区の防災訓練や夏祭りなどに参加している。事業所の夏祭りには地域住民やボランティアの参加がある。また、毎年獅子舞、祇園祭、ハロウィンなど、四季折々の行事に事業所に来てくれるなど、地域との交流が出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修に参加することで、自らのレベルアップに努力し、地域の会合に参加しながら、認知症のケアの啓発に努めている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のケアや取り組んでいること、計画していることを報告相談し、意見をいただくようにしている。また管理者だけでなく不定期に職員も参加し、サービス向上に目を向ける機会を持ち、ケアに活かす取り組みをしている	運営推進会議では、事業所の活動状況について報告し、出された意見は検討し、日常のサービスに活かしている。会議録は委員全員に配布している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員にご参加頂き、不明なことはその都度連絡し助言を頂きながら連携を取っている。又、包括支援センター主催の実務者会議に参加して市との連携をはかっている。	事業所の実情や活動状況の報告や相談など、積極的に行っている。運営推進会議で地域密着型サービスのあり方や、グループホームに対する市の体制などについて説明してもらったり、地域住民に対しての認知症の啓蒙活動についての相談など、協働関係が出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」11項目をはり出し、委員会主体による身体拘束の勉強会を実施し、全職員の共通認識を図っている。職員虐待防止チェックリストを年2回を行い、虐待防止に努めている。	事業所内で、委員会による勉強会を実施すると共に、「禁止の対象となる具体的な行為について」を掲示して、全職員で、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会主体の虐待の勉強会を実施し、虐待防止についての理解浸透や遵守を目的とした取り組みとして、自己チェック表を作成し職員は管理者に提出し、管理者は個人面接を行い把握に努めている	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は必要な場合は社会福祉協議会と連携し対応を行っているが、制度利用希望の利用者が少ないことも伴って学ぶ機会は持っていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設のケアに関する考え方や取り組み退去を含めた施設の対応可能な範囲についての説明を行っている。御家族からも出来る限りケアへの希望を頂き施設での生活がより良いものになるように心がけている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を本格的に運営し、2ヶ月に1度のペースで御家族の意見を聞き取り施設会議に反映させている。利用者様に常に目を向け思いをくみ取り職員会議で職員全員で意見交換し、ケアに反映させている	家族の集いを年2回実施している。参加できない家族には、訪問したり、電話で意見や要望を聞いている。また、利用者に対しては、常に寄り添うことで思いをくみ取り、全職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くように心がけているが、なかなか不満や苦情を把握しきれない可能性がある	毎月、各委員会で話し合った結果を全体会議で検討している。また、年2回は個人面談を実施し、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果について把握評価している。また健康診断の実施等職員の心身の健康の対応を行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の情報を収集し、施設外での研修には全職員が受講出来るように計画を立て実行している。定期的な施設内での勉強会、プレゼンテーションを通じスキルアップを計っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他福祉施設の見学、研修を実施し、交流を図り今後活かしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用希望時は、必ず施設見学を実施していただく。利用者様によってはお試し入所という形式を取っていただき、本人の思いに向き合う姿勢を第一と考え、出来る限り聞き取りを行い関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いやこれまでの経緯についてゆっくりと話を聞き、これからの対応の話合いを行うようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や御家族に思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返し、必要なサービスへつなげていけるように努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とたくさんの会話を持ち、思いを共感し、共に支えあえる関係作りに努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状況を毎月の担当者の手紙や施設の新聞で報告している。来所時はご本人様との時間を邪魔しないように配慮しながら、御家族に声をかけ、ご本人様の状況を伝えるように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクのドライブで自宅近くや、馴染みの地域に出掛けるようにしている。また家族や友人からの電話が子機を使用して居室において会話が出来るようにしている	ドライブや定期受診などの機会をとらえて、自宅や馴染みの場所を訪れている。また、行きつけの理・美容院や、以前働いていた造船所の進水式に行ったり、家族や知人への電話など、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全ての職員が情報を共有するようにしている。その日の心身状態や気分、感情で変化が著しいので、注意深く見守り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等へ移られた方にはこれまでの生活状況、支援の内容、注意が必要な点等、情報提供を行い、本人の生活の継続性を損なわないように努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、関わりを持つ中で声かけを十分に行い、また言葉や表情から察することで把握に努めている。意思疎通が困難な方には御家族から情報を得るようにしている	毎日の関わりの中で声かけを行い、意向の把握に努めているが、一人ひとりの生活歴や入居後知り得た情報などの記録が少なく、職員間の共有が出来ていない。	フェイスシートなどに、利用前の生活歴や、入居してからの情報を記録し、全職員で共有し、思いや意向の把握に努めることが期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を繰り返すことでご本人より新しい情報を聞くことが出来たことや、御家族が会話の中で思い出された内容を職員間で共有するように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1人1人の1日の生活の流れを理解し、ご本人の全体像の把握に努めている。ご本人の生活の中で出来ることを見つけるように努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族に日々関わりの中で思いを伺い反映させるようにしている。期間に関わらず身体状況や、ケアへの思いが変化した場合に再度作成を行っている。毎月のケアカンファレンスで職員全員で話し合っている	計画作成担当者が中心となって、本人や家族、全職員の意見や情報を集め、計画の作成をしている。月1回、担当職員がモニタリングを実施し、計画の見直しに活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルは常時記録。日々の記録はPC入力し、情報が必要な時は随時閲覧可能な状態になっている。情報の共有についてはノート、朝礼時の申し送り、ホワイトボードにて伝達している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常の通院は施設職員が付き添っている。またご本人の通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の不安を減らすように努めている		

事業者名: グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市役所、包括支援センター、民生委員、区長に参加していただくことで関係が強化され、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築けている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医の他、希望があれば利用前からのかかりつけ医で医療を受けることができるように連携を図っている。通院は施設職員が付き添っている	本人及び家族の希望するかかりつけ医になっており、定期受診は職員が送迎している。状況変化時には家族に連絡し、家族と職員と一緒に付き添っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の状態の変化を見逃すようなことがないように注意し、気付いたことがあればホンレンソウシートに記載したり、看護師に直接報告し、適切な医療につなげている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合、介護要約を早急に作成し、病院に情報提供を行っている。面会時には病院職員に治療経過を聞き、退院の目処がついた場合は早急に受け入れ態勢を整える		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と年に1回は緊急時の対応や今後の方針を話し合っている	看取りはしないという方針で、終末期のあり方を契約時や状況変化に応じて家族と話し合うようにしている。医療処置のない利用者については、重度化支援に取り組んでいるが、終末期は医療機関に搬送している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、定期的に救命救急法等の講義を実施している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て定期的に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。マニュアルを作成し、災害に備えた備品を準備している	地域の防災訓練に参加したり、年2回は事業所でも訓練を実施し、備蓄も整備されている。	日中の訓練だけでなく、夜間の訓練の実施や、地域住民との協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が個人情報の取り扱いについては慎重に行っている。委員会主体でプライバシー保護の勉強会を実施している	個人情報やプライバシーの保護について委員会主体で勉強会を実施しているが、利用者の自己決定や誘導の声かけ、対応への配慮について、全職員への徹底が不十分である。	全職員が、個々の利用者の誇りやプライバシー尊重の面から、常に具体的な確認をしようことが大切であり、日常的な関わりの中で、確認と改善に向けた事業所全体での取組みが期待される。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と過ごす時間を通して、ご本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、出来る限り本人の自己決定を促すような支援を心がけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の1人1人の1日の生活リズムや思いを大切に、その人らしい生活が出来る様な支援を心がけているが、入浴や行事、スタッフの人数や都合で決めていることも少なくない		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に施設に来てもらいカットを行ってもらっている。お化粧品やヘアカラー等を行ったり、その人らしいおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好物を本人や御家族に伺い誕生日会のメニューに提供したり、後片付け等出来る方には手伝っていただいている	3食とも事業所で作っているため、出来る人は一緒に手伝ったり、調理の音や匂いで五感も刺激される。時々、利用者の希望に添ってメニューの変更をしたり、柔軟に対応している。	食事は1日の中の楽しみの1つであると共に、身体状況の把握、健康管理にも重要な時間である。利用者と職員が食卓を囲み、一緒に食事を味わいながら、食事が楽しいものになるような支援が望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日チェック表に記録している。水分摂取が困難な方にはお茶ゼリーにする等工夫している。変化があった場合は申し送りや伝達する等職員が情報の共有に努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけ見守りを行い、介助を行ったり、口腔ケアが難しい方には歯磨きティッシュやハミングット等を用いたり、利用者様の状況に応じた口腔ケアを毎食後実施している		

事業者名: グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に合わせてリハビリパンツやパットを使用し、トイレでの排泄を基本に、自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維の多く取れる食材の使用や水分補給を心がける。散歩の実施や、ご本人の体調に合わせて内服でコントロールする場合もある		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に利用者様に話しかけ安心して入浴していただけるように支援している。時間は検討中である	基本的に入浴時間は午前中となっている。その日の希望に合わせ、状態によっては介助者が1人または2人付いて入浴支援をしている。個浴なので、利用者職員とのコミュニケーションの場と考えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。昼夜逆転されている方は転倒に注意し、原因に応じて対応し、眠れないのですぐに内服ということはない		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は確実な内服を目で確認している。状態に変化が見られる時は看護師に報告し対応できるようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりで利用者様一人一人の出来ることを見つけ、出来るような仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の習慣や楽しみに合わせて、外食やドライブ、買い物、家族との外出にも柔軟な対応を行っている	利用者のその日の希望に合わせて、買物などの外出をしたり、車いすの利用者はウッドデッキに出るなど、外気に触れる支援をしている。外食や馴染みの場所、集団でのドライブなど家族の協力を得ながら実施することもある。	

事業者名: グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談し小額の金銭を持たれている利用者様もいるが、認知症の進行によって色々なリスクが生じ検討しなければならないケースも増えてきている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に暑中見舞いや、年賀状を出したりしている。電話も子機を使い居室での会話が可能となっている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁には年間行事で行われた写真を飾り、天井には季節に応じた飾りつけを行い利用者様に観賞していただけるように明るい空間作りを心がけている	共用空間は、熱帯魚の水槽、鉢植え、利用者の作品や写真が飾られ、利用者はユニット間を自由に行き来でき、開放的である。家具やソファなども使いやすい配置となっており、一人ひとりが自由にくつろげる工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、リビングにソファを配置しまた畳の部屋の段差を利用し、利用者様同士が気軽に腰掛けてお話ができるようにしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込まれたり、家族の写真や飾られている利用者様もあり、持ち込みが少ない方にも居室内の壁を飾ったりして居心地のよい空間作りに努めている	家具や家族写真、寝具も、使い慣れたものを持ち込んでおり、馴染みのものを活かして、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室のネームプレートやドアに名前を貼ったり、またトイレもはっきりわかるようにして利用者様の気付きに心がけた環境作りに努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600022		
法人名	有限会社 ふくすけ		
事業所名	グループホーム ふくすけ 2ユニット		
所在地	大分県臼杵市大字戸室字長谷1135番地の1		
自己評価作成日	平成23年11月9日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、職員が安心して家族を入所させたいと思うふくすけにしていく。その為にも認知症介護のプロとして接遇に徹底し、自分の行ったありのままに記録に残すをスローガンのもと、基本に戻り、利用者様の尊厳を明確にし、利用者様のラストステージを彩り鮮やかに送っていただきたいとケアの質に、こだわり、やったことに対しての確実な記録ができるように頑張ってきました。又、家族の集いを中心とした、利用者様のご家族に対しての支援も力を入れて行ってきました。家族が参加しやすい環境づくりにこだわり模様しものを取り入れました。今後も皆様に理解して気軽に立ち寄っていただけるグループホームとして地域に根差していくように努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(ふくすけ 1ユニットと同様)

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時(申し送り)出勤全職員で理念の復唱を毎日継続することで意識し、また1年ごとのスローガンを設け、具体的に話し合い実践に結び付けるように取り組んでいる		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々地域の方々と挨拶を交わしながら、地域の避難訓練に参加したり、夏祭りの参加等と通じてより良い交流が行われるように努めている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修に参加することで、自らのレベルアップに努力し、地域の会合に参加しながら、認知症のケアの啓発に努めている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のケアや取り組んでいること、計画していることを報告相談し、意見をいただくようにしている。また管理者だけでなく不定期に職員も参加し、サービス向上に目を向ける機会を持ち、ケアに活かす取り組みをしている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員にご参加頂き、不明なことはその都度連絡し助言を頂きながら連携を取っている。又、包括支援センター主催の実務者会議に参加して市との連携をはかっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」11項目をはり出し、委員会主体による身体拘束の勉強会を実施し、全職員の共通認識を図っている。職員虐待防止チェックリストを年2回行い、虐待防止に努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会主体の虐待の勉強会を実施し、虐待防止についての理解浸透や遵守を目的とした取り組みとして、自己チェック表を作成し職員は管理者に提出し、管理者は個人面接を行い把握に努めている	/	/

事業者名: グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は必要な場合は社会福祉協議会と連携し対応を行っているが、制度利用希望の利用者が少ないことも伴って学ぶ機会は持てていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設のケアに関する考え方や取り組み退去を含めた施設の対応可能な範囲についての説明を行っている。御家族からも出来る限りケアへの希望を頂き施設での生活がより良いものになるように心がけている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を本格的に運営し、2ヶ月に1度のペースで御家族の意見を聞き取り施設会議に反映させている。利用者様に常に目を向け思いをくみ取り職員会議で職員全員で意見交換し、ケアに反映させている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は共に職員の要望や意見を聞くように心がけているが、なかなか不満や苦情を把握しきれない可能性がある		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果について把握評価している。また健康診断の実施等職員の心身の健康の対応を行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の情報を収集し、施設外での研修には全職員が受講出来るように計画を立て実行している。定期的な施設内での勉強会、プレゼンテーションを通じスキルアップを計っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他福祉施設の見学、研修を実施し、交流を図り今後活かしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用希望時は、必ず施設見学を実施していただく。利用者様によってはお試し入所という形式を取っていただき、本人の思いに向き合う姿勢を第一と考え、出来る限り聞き取りを行い関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いやこれまでの経緯についてゆっくりと話を聞き、これからの対応の話合いを行うようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や御家族に思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返し、必要なサービスへつなげていけるように努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とたくさんの会話を持ち、思いを共感し、共に支えあえる関係作りに努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状況を毎月の担当者の手紙や施設の新聞で報告している。来所時はご本人様との時間を邪魔しないように配慮しながら、御家族に声をかけ、ご本人様の状況を伝えるように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクのドライブで自宅近くや、馴染みの地域に出掛けるようにしている。また家族や友人からの電話が子機を使用して居室において会話ができるようにしている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全ての職員が情報を共有するようにしている。その日の心身状態や気分、感情で変化が著しいので、注意深く見守り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等へ移られた方にはこれまでの生活状況、支援の内容、注意が必要な点等、情報提供を行い、本人の生活の継続性を損なわないように努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、関わりを持つ中で声かけを十分に行い、また言葉や表情から察することで把握に努めている。意思疎通が困難な方には御家族から情報を得るようにしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話を繰り返すことでご本人より新しい情報を聞くことが出来たことや、御家族が会話の中で思い出された内容を職員間で共有するように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1人1人の1日の生活の流れを理解し、ご本人の全体像の把握に努めている。ご本人の生活の中で出来ることを見つけるように努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族に日々関わりの中で思いを伺い反映させるようにしている。期間に関わらず身体状況や、ケアへの思いが変化した場合に再度作成を行っている。毎月のケアカンファレンスで職員全員で話し合っている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルは常時記録。日々の記録はPC入力し、情報が必要な時は随時閲覧可能な状態になっている。情報の共有についてはノート、朝礼時の申し送り、ホワイトボードにて伝達している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常の通院は施設職員が付き添っている。またご本人の通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の不安を減らすように努めている		

事業者名: グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市役所、包括支援センター、民生委員、区長に参加していただくことで関係が強化され、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築けている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医の他、希望があれば利用前からのかかりつけ医で医療を受けることができるように連携を図っている。通院は施設職員が付き添っている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の状態の変化を見逃すようなことがないように注意し、気付いたことがあればホンレンソウシートに記載したり、看護師に直接報告し、適切な医療につなげている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合、介護要約を早急に作成し、病院に情報提供を行っている。面会時には病院職員に治療経過を聞き、退院の目処がついた場合は早急に受け入れ態勢を整える		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と年に1回は緊急時の対応や今後の方針を話し合っている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、定期的に救命救急法等の講義を実施している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て定期的に避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。マニュアルを作成し、災害に備えた備品を準備している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が個人情報の取り扱いについては慎重に行っている。委員会主体でプライバシー保護の勉強会を実施している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と過ごす時間を通して、ご本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、出来る限り本人の自己決定を促すような支援を心がけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の1人1人の1日の生活リズムや思いを大切に、その人らしい生活が出来る様な支援を心がけているが、入浴や行事、スタッフの人数や都合で決めていることも少なくない		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に施設に来てもらいカットを行ってもらっている。お化粧品やヘアカラー等を行ったり、その人らしいおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好物を本人や御家族に伺い誕生日会のメニューに提供したり、後片付け等出来る方には手伝っていただいている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日チェック表に記録している。水分摂取が困難な方にはお茶ゼリーにする等工夫している。変化があった場合は申し送りで伝達する等職員が情報の共有に努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけ見守りを行い、介助を行ったり、口腔ケアが難しい方には歯磨きティッシュやハミングット等を用いたり、利用者様の状況に応じた口腔ケアを毎食後実施している		

事業者名: グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から時間や習慣を把握し、トイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維の多く取れる食材の使用や水分補給を心がける。散歩の実施や、ご本人の体調に合わせて内服でコントロールする場合もある		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に利用者様に話しかけ安心して入浴していただけるように支援している。時間は検討中である		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。昼夜逆転されている方は転倒に注意し、原因に応じて対応し、眠れないのですぐに内服ということはない		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋を整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は確実な内服を目で確認している。状態に変化が見られる時は看護師に報告し対応できるようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりで利用者様一人一人の出来ることを見つけ、出来るような仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の習慣や楽しみに合わせて、外食やドライブ、買い物、家族との外出にも柔軟な対応を行っている		

事業者名: グループホームふくすけ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談し小額の金銭を持たれている利用者様もいるが、認知症の進行によって色々なリスクが生じ検討しなければならないケースも増えてきている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に暑中見舞いや、年賀状を出したりしている。電話も子機を使い居室での会話が可能となっている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁には年間行事で行われた写真を飾り、天井には季節に応じた飾りつけを行い利用者様に観賞していただけるように明るい空間作りを心がけている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、リビングにソファを配置しまた畳の部屋の段差を利用し、利用者様同士が気軽に腰掛けてお話ができるようにしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込まれたり、家族の写真や飾られている利用者様もあり、持ち込みが少ない方にも居室内の壁を飾ったりして居心地のよい空間作りに努めている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室のネームプレートやドアに名前を貼ったり、またトイレもはっきりわかるようにして利用者様の気付きに心がけた環境作りに努めている		